

[福岡アジア美術館 特別企画展]

魅せられて、インド。

日本のアーティスト／コレクターの眼

プレスリリース

2011.11.22



福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 リパレインセンタービル7・8階
Tel:092-263-1100 Fax:092-263-1105 <http://faam.city.fukuoka.lg.jp/>

■開催概要

1. 展覧会名 魅せられて、インド。——日本のアーティスト/コレクターの眼
Collecting India: Fascination with Indian Visual Culture in Contemporary Japan
2. 会期・時間 2012年1月21日(土)～3月11日(日) [44日間]
午前10時～午後8時(入場は午後7時半まで)、水曜日休館
3. 会場 福岡アジア美術館 企画ギャラリー [7階、約1000㎡]
4. 主催 福岡アジア美術館、西日本新聞社、テレビ西日本
5. 後援 駐日インド大使館、公益財団法人 日印協会
6. 助成 芸術文化振興基金
7. 参加アーティスト/コレクター(予定) 28組(30人)
8. 観覧料 一般800(600)円、高大生500(300)円、中学生以下無料
※()内は前売りなど

■趣旨

インドと日本との間では、近代以降、宗教、思想、文化、芸術など、実に広いジャンルにおいて交流がなされてきました。1964年に個人の海外渡航が自由化されると、多くの若者が日本を脱してインドへ旅するようになり、それ以降現在まで、さまざまな視点で「混沌のインド」に向き合ってきました。そして、近年では、新興経済国としてのインドに高い関心が集まっています。

「魅せられて、インド。——日本のアーティスト/コレクターの眼」展は、戦後の日本とインドの交流のなかで、日本にさまざまな形で積み重ねられた「インド」を多彩な作品で紹介することにより、日本におけるインドのイメージがどのように形成されてきたか、またそれが現代の日本文化にどのような影響を与えてきたのかを明らかにしようとする展覧会です。

第一部では、太平洋戦争後、日本のアーティストによるインドをテーマとした表現に焦点をあてます。特に1960年代以降、インドの文化や精神世界へのあこがれが広く見られたことをふまえ、絵画、写真、デザイン、映像など広い視覚表現の諸分野で、日本のアーティストを魅了してきたインドの美意識や造形がどのようなものであり、またそれが日本でどう展開されたのかを探ります。続く第二部では、日本の個人コレクターが蒐集してきた多彩なコレクションを紹介します。インドに頻りに足を運び続ける市井のコレクターが、各々の美意識やこだわりのもとに集めてきた絵画、印刷物、民芸品など、これまで一般公開されることなかった秘蔵コレクションを公開します。

※ここでいうインドとは、「インド亜大陸」の意。



〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 リパレインセンタービル7・8階
Tel:092-263-1100 Fax:092-263-1105 <http://faam.city.fukuoka.lg.jp/>

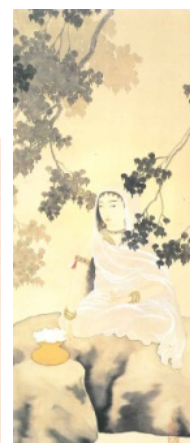
■展示構成

序 日本とインド美術交流 ことはじめ

20世紀初頭の日本画家とベンガル派との交流に始まり、その後も多くの日本の美術作家が、戦前のインドを旅しました。まだインド訪問の機会が稀だった時代における、日本とインドとの美術交流の黎明期をたどります。

【出品作家】

- 01 横山大観
- 02 オボニンドラナト・タクル



オボニンドラナト・タクル 《アショーカ王妃と菩提樹》
制作年不詳、福岡アジア美術館

横山大観《樹下美人》
1912年頃、
茨城県近代美術館蔵

第一部 アーティストが見た「インド」

インドに住み、また足繁く通いながら現地を調査し、「深く」交流する中で、インドの視覚文化の影響を強く受けた画家、グラフィック・デザイナー、写真家、映像作家などさまざまなジャンルのアーティストによる作品を紹介します。なかでも日本人が抱くインド・イメージの形成に大きな影響を与えたアーティストを取り上げます。

また、作品と同時に、アーティストたちが、コレクターとしてインドから持ち帰った当時の絵画や印刷物、染織や民芸品など、こだわりのコレクションを合わせて展示します。表現された作品と蒐集されたコレクションの両方をひとつの部屋に展示することにより、それぞれのアーティストがどのようにインドを理解し、自分の表現に結び付けていったのかを探ります。

【出品作家】(予定) ※作家名、(肩書、生没年)、●展示作品／◆蒐集作品、の順で表記

- 01 秋野不矩(日本画家、1908-2001)
 - 《ブラーミンの家》ほか
- 02 平山郁夫(日本画家、1930-2009)
 - 《故城下村民帰牧図》
- 03 沖守弘(写真家、1929-)
 - インドの民俗画を撮った写真／◆ワルリー画
- 04 妹尾河童(舞台美術家、1930-)
 - 著書『河童が覗いたインド』の原画／◆本書に描かれるその旅で買い求めた物
- 05 杉浦康平(グラフィックデザイナー、1932-)
 - グラフィックデザイン
- 06 横尾忠則(美術作家、1936-)
 - インドの職人とコラボレーションした油彩ほか／◆インド大衆宗教画ほか



福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 リパレインセンタービル7・8階
Tel:092-263-1100 Fax:092-263-1105 <http://faam.city.fukuoka.lg.jp/>

- 07 藤原新也（写真家、1944-）
 - 『印度放浪』の写真作品
- 08 相原信洋（アニメーション作家、1944-2011）
 - アニメーション《カルマ》ほか、およびその原画
- 09 畠中光享（日本画家、1947-）
 - 『塩の行進』ほか／◆インド彫刻、ムガール細密画、染織、ブリキや布の玩具ほか
- 10 西岡直樹（作家）・西岡由利子（テンペラ画家・染織家）
 - 著書『インド花綴り』の原画、テンペラ画／◆ベンガルのサンタル・ポト
- 11 蔵前仁一（編集者、グラフィックデザイナー、1956-）
 - 著書『ゴーゴー・インド』などの原画
 - ◆タバコや石鹸のパッケージファイル、ミティラー、ワルリー、ゴンド画
- 12 グレゴリ青山（漫画家、1966-）
 - 著書『グ印観光』などの漫画原画／◆インド映画（ボリウッド）ポスターやグッズ



秋野不矩《ブルーミンの家》1984年、
静岡県立美術館蔵



妹尾河童《『河童が覗いたインド』原画》1985年、個人蔵



横尾忠則《悠久の愛》1991年、個人蔵



藤原新也《全東洋写真シリーズ》1969年、
東京都写真美術館蔵



畠中光享《塩の行進》2007年、個人蔵（部分）



【畠中コレクション】（彫刻・ブリキ玩具）

第二部 インドを集めたコレクターたち

60年代以降、インドを行き来した日本の研究者、サラリーマン、貿易商など市井のコレクターが蒐集した木版画や陶磁器、民画、玩具、細密画、印刷物などを紹介します。各コレクターごとに分けて紹介することで、その独自の美意識、こだわりの世界を展開します。さまざまな職業を持つ/持っていた日本のコレクターが魅せられ、厳選して蒐集した多彩なインドの視覚表現をとおして、日本人がインドに求めたイメージの変遷を探ります。

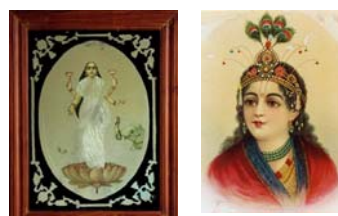
【出品コレクター】

- 01 黒田豊コレクション
- 02 遠藤健一（美術教師、サイケデリック・レコード・コレクター）
- 03 中嶋コレクション
- 04 岩立広子（岩立フォークテキスタイルミュージアム）
- 05 加藤豊（燐票家・グラフィックデザイナー）
- 06 黒崎卓（開発経済学者、南アジア経済研究者）
- 07 関口真理（インド、南アジア研究者）
- 08 松岡環（アジア映画研究者）
- 09 すぎたカズト（「ナマステ・ボリウッド」主宰）
- 10 山根聡（ウルドゥー文学研究者）
- 11 小磯学・小磯千尋（インド文化研究家・宗教文化研究家）
- 12 杉本良男（社会人類学者）
- 13 グレンバラ美術館コレクション
- 14 長谷川時夫（前衛音楽家、ミティラー美術館館長）



【黒田豊コレクション】

左：ブネーの肖像画 右：ガラス絵



【遠藤健一コレクション】インド大衆宗教画



【中嶋コレクション】

ヴァルマ・プリント

【加藤豊コレクション】

明治期のインド向け

輸出マッチラベル



【岩立広子コレクション】染織コレクション



【小磯コレクション】
ガネーシャ神の置物



【杉本良男コレクション】
インドのバービー人形



【グレンバラ美術館コレクション】
ジョゲン・チョードリー「ソファに座る男」1980年

■出品作品

絵画、写真、グラフィック・デザイン他、関連資料 約 1000 点

■印刷物

ポスター（B2）、チラシ（A4）、図録（A4 変形、128 頁、和英併記）

■関連イベント

（1）講演会 1：妹尾河童『河童が覗いたインド』を語る

『少年 H』で広く知られる妹尾河童氏は、あふれる好奇心を抱えて 80 年代にインドを旅しました。あの時覗いたインドを、自著『河童が覗いたインド』を繰りながら、今、ふたたび語ります。

日時：2月11日（土） 14時～15時半

場所：福岡アジア美術館 あじびホール

入場料：500円 ※事前申込み制（120名）

※特別プレゼント（『河童が覗いたインド』などの原画の複製2枚、落款付き！）

また、『河童が覗いたインド』持参の方に限り、著者がサイン

（2）講演&上映会 2

インド映画「(交渉中)」上映

講演「日本にやってきたインド映画～85年の歩みと広がり」松岡環（アジア映画研究者）

インド映画は、70年代以降、松岡環氏を通して日本に紹介されてきました。年間数多く製作されるインド映画の日本語の字幕翻訳者にして、インドのみならずアジア全域の映画にも詳しい松岡環氏のめくるめく語りの世界へ。また、松岡氏の字幕によるインド映画「(交渉中)」も上映します。

日時：2月12日（日）

①10時半～ 映画（〇分）+14時～ 講演（90分）

②14時～ 講演（90分）+16時～ 映画（〇分）

場所：福岡アジア美術館 あじびホール

入場料：500円

(3) 絵本でインドの民話を聞く会

本展に出品される西岡直樹・再話、西岡由利子・絵の『ふしぎな国の ふしぎなミルク』や『サルボクマル』などインドの民話の絵本の原画をみながら、当館のボランティアが絵本を朗読します。

日時：1月22日（日）、2月19日（日）、3月4日（日）

各日とも 14時～14時半

場所：福岡アジア美術館 企画ギャラリー内 ※観覧券チケットが必要です

○ミュージアムショップ

本展特別コーナーの設置

出品アーティスト/コレクターのグッズ販売

○FAAM カフェ

本展特別メニュー「インド・セット」

■連携事業

○シネラ「インド映画特集」18本一挙上映！

古い作品としては、グル・ダット監督の『紙の花』（1959年）から、巨匠マニラトナム監督の『ボンベイ』（1995年）、そして近作まで、インド映画をフィルムで18本一挙上映します。

会期：2月1日（水）～2月25日（土）※月曜日、火曜日を除く

会場：福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

観覧料：500円（大人）400円（大学生・高校生）300円（中学生・小学生）

問合せ：福岡市総合図書館 映像資料課

福岡市早良区百道浜3-7-1 Tel:092-852-0600

■問合せ・資料請求

※掲載の際は、最終的な確認を、下記の担当者を取っていただきますようお願いいたします。

○観覧会、関連事業についてのお問い合わせ

学芸課 五十嵐理奈 rina@faam.ajibi.jp

中尾智路 tomo@faam.ajibi.jp

○資料請求等

学芸課（広報） 古川勝敏 furukawa@faam.ajibi.jp

福岡アジア美術館

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル7・8階

Tel: 092-263-1100 Fax: 092-263-1105 web site: <http://faam.city.fukuoka.lg.jp/>



福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル7・8階

Tel:092-263-1100 Fax:092-263-1105 <http://faam.city.fukuoka.lg.jp/>